

岩手医科大学歯学会第57回例会抄録

日時：平成16年 3月 6日（土） 午後1時

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室（C棟 6F）

一般演題

演題1. 矯正患者の診療時間に関するアンケート調査について

○鈴木 里奈, 遠藤 陽子, 清野 幸男
三浦 廣行

岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座

目的：ここ数年本学歯学部附属病院全体の newcomers 数は減少傾向にある。当科の newcomers 数も過去5年間でおよそ4割減少していた。その原因の一つとして、本学の診療日や診療時間が患者さまのニーズに合致していないことから受診が敬遠されたのではないかということが考えられた。そこで患者さまの診療時間に対するアンケート調査を行った。

方法：平成15年11月から12月までの実日数25日間に矯正歯科外来を受診した患者さま536人を対象とした。当科の受付で調査の協力をお願いし、待合室や外来での待ち時間を利用してアンケート用紙に記入していただいた。

結果：調査対象の内訳は男196人、女340人であった。職業別では小学生が最も多く34.9%であった。診療時間に関する患者さまの第一希望は、平日では午前10時頃と午後4時から7時頃の二つのピークが、土曜日では午前10時頃に一つのピークがみられた。曜日に関しては土曜日の受診を第一希望とする患者さまが多かった。希望が叶った方は、時間では平日が40.3%、土曜日が46.8%であった。一方、曜日では42.0%であり、いずれも半数に至らなかった。時間と曜日の両者を合わせてみると希望が叶った方は26.5%であった。

考察：診療時間に関しては、平日は通院に要する時間および学校や仕事の都合でピークが二つに、また、土曜日は休日であるため、午後を有意義に使いたいという理由からピークが午前中の一つであったと考えられる。曜日については患者さまの学校や仕事に加えて、保護者の方の都合により土曜日の希望が多いと考えられた。この傾向は、当科の患者さまの年齢層が低年齢

層の児童、生徒が多いことが大きく影響しているものと推察された。

結論：診療時間に関して、現行の診療日、診療時間枠の中では患者さまの希望はなかなか叶えられていないことが把握できた。

演題2. OSCE において評価者は何を評価したか

○相澤 文恵, 米満 正美, 稲葉 大輔*
寺田林太郎*, 菅原 教修*, 石川 義人*
星 秀樹*, 虫本 栄子*, 藤澤 政紀*
清野 幸男*, 浅川 剛吉*, 小豆島正典*
佐藤 雅仁*, 戸塚 盛雄*, 福田 容子*
藤村 朗*, 立花 民子*, 松本 範雄*
客本 斉子*, 村井 繁夫*, 武田 泰典*
佐々木 実*, 平 雅之*, 水城 春美*

岩手医科大学歯学部予防歯科学講座 同 OSCE 実施委員会*

目的：OSCE における複数評価者間の評価の一致度を高めるためには、評価者の評価領域判断を統一する必要がある。このことから、評価者の評価判断領域を項目別に検討し、評価の一致度との関連性を分析した。対象・方法：岩手医科大学歯学部第2回 OSCE トライアルにおける評価担当者53名を対象として、各評価項目が「技能」、「態度」、「知識」のどの領域を評価しているものとして判断したかを質問紙によって調査した。質問紙の回答は χ^2 検定、母比率の多重比較検定、Kruskal-Wallis 検定、Mann-Whitney の U 検定を用いて分析した。また、OSCE 評価の一致度は κ 統計量によって評価した。

結果：質問紙の回収率は73.6%であった。判断領域別に評価の一致度を比較した結果、領域数が少ないほど一致度が高い傾向にあったが、統計学的有意差は認められなかった。また、領域判断の全ての組み合わせと、「適切な」、「できる」を含む評価項目との関連性を分析した結果、それらの表現がある項目は「技能」領域として有意に判断された。さらに、評価項目中に